

在宅看護実習から得た学び

ています。緊急事態宣言により、リモート実習が中心という状況の中で学びを深めていくためには、より主体的な学習姿勢が求められています。

私は、5月下旬から2週間の在宅看護実習を行いました。在宅療養者に必要な支援について、事例を通して看護過程を展開し必要な支援についてグループワークを行いながら学習していきました。

その結果、様々な視点から療養者とその家族の生活について捉える能力や支援の展開方法について学びを得ました。そして実際に訪問看護師としての支援について

はリモートでロールプレイを行いました。また今回の実習では、グループワークを行うことにより、それぞれの考え方や対象者の捉え方について意見交換を行ったことで、多角的な

視点から対象者を捉えるための視野を広げることに関わりました。

在宅療養において重要とされる社会資源については、療養者が望む生活に近づけるために連携が必要な職種について検討を行うことにより、社会資源だけでなく他職種の理解の必要性など多くの学びを得ました。

名寄市地域包括支援センターでの実習もリモートで行いま

した。具体的な方法としては、地域包括支援センターの保健師の方とZOOMで

つなぎ、支援事業や業務について学習しました。私は、今まで学習してきた事業などについて具体的にイメージできる機会

となっただけでなくカンファレンスでは学生の疑問点に関しても教えて頂きより学びが深まる機会となりました。

私は、来春には看護師として実際に患者さんと関わっていく立場となります。看護の対象となる方は皆さん地域に住ん



でいる方です。そのことを前提に考えながら今回の実習で得られた経験を活かして、残された学生生活で1つでも多くの学びを得られるよう、勉強に励みたいと思います。

看護学科4年

森下はるか